

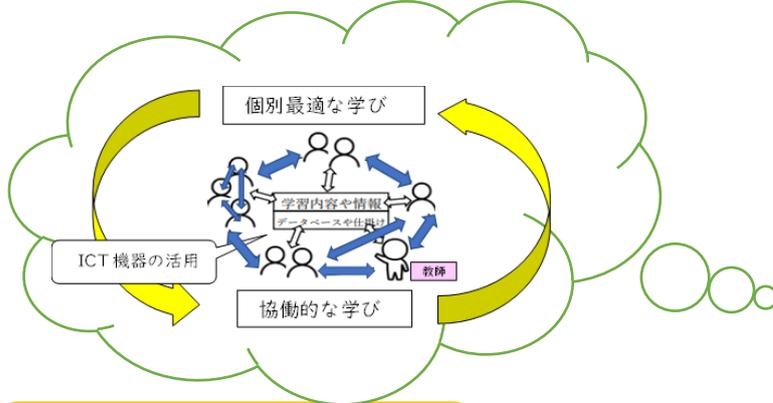


前期学校訪問（嶺南4町）まとめ号①

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について

☆「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について前期訪問の全体研究会で先生方と考えてみました！

「個別最適な学び」に向けて授業でどんなことができそうか、下のようなイメージ図（一例）を使って考えていただきました。そこで出された意見を吹き出しにまとめました。



学習支援ソフト等を活用し、他の児童生徒の進捗状況を自分のタイミングで確認できるようにする。



表現方法を自己選択できるようにする。（ワークシート、ノート、1人1台端末）



学習に必要な情報
技能の動画・教科書・書籍
インターネット、URL など
クラウド上に自ら取りにいたり、選んだりできるようにする。

デジタルドリル等を活用し、個別の学習支援にする。



学習形態を自己決定できるようにする。（個人、ペア、グループ）

端末を活用して、一人ひとりの進捗、つまづきを把握する。効果的に支援し、児童生徒の自己調整を促す。



上のような学習スタイルを単元末に取り入れてみる。

- （例）・〈算数・数学〉既習事項を使って興味・関心に合わせた発展課題や問題づくりに取り組む。
- ・〈国語〉教材文について語ってみたいテーマ（魅力的な登場人物、印象に残った場面、〇〇と主人公の関係など）を選び、魅力についてさまざまな表現方法で発信する。

☆前期学校訪問の一般参観授業で見られた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を意識した授業を紹介します。

2年生 算数「たし算とひき算のひっ算(1)」(11/全12時間)

- ①既習事項を使って「虫食いクイズ」や「まちがいクイズ」の問題を作り(ワークシート)、写真をスカイメニュー(注1)にあげる。
 - ②スカイメニューから解きたい問題を選んでチャレンジする。(タッチペン)
 - ③問題作成者のところに行って採点してもらい、分からないときはヒントをもらう。
- ★課題と学習形態を自己選択していた。手順表で確認することで見通しをもって取り組むことができていた。思考を継続しながら、自分のペースで学習を進めていた。先生は、全体を把握しながら必要に応じて個別に声かけをしていた。

4年生 理科「雨水のゆくえと地面のようす」(2/全5時間)

(前時) 雨水の流れ方や集まり方について、気付いたことや疑問から課題設定をする。

- ①課題解決に向け、グループごとに実験を考えて実施する。(時には1人で追究する時間)
 - ②実験を考える時や実験結果を基に考察する時に、思考ツール(注2)を活用する。
 - ③各グループでは、必要な資料(デジタル教科書の切り取りなども利用)や実験結果の動画やメモをロイロノートの共有ノートに貼り付け、グループ内で共有する。
 - ④共有ノートの中からみんなに伝えたいシートを選択し、グループ間で研究の経過報告を行う。
- ★情報収集の方法を自己選択することで思考が継続していた。自分のやりたい実験を考え材料を準備し、試行錯誤しながらも自由に取り組んでいた。先生は、「何を調べたいのか」を常に問いかけ、個人の思考に寄り添いながら支援をしていた。

4年生 体育「ゴール型ゲーム(ミニサッカー)」(4/全6時間)

- ①チームごとに、ミライシード(注3)のオクリンク(注4)に貼られたアップメニュー動画(単元の導入時に全員で体験したメニューを含む)を参考に、チームに必要なメニューを選んで練習する。
 - ②前時に立てたチームの課題をミライシードのムーブノート(注5)(チームで1つのカードを使用し、全員にすべてのチームの課題を共有してアドバイスできるようになっている)で確認・共有し、ゲームを行う。
 - ③②と同様にミライシードのムーブノートでゲームを振り返る。ゲームの写真や動画はipadのiCloudの学級共有フォルダに保存し、閲覧可能にしておく。
- ★チームや個人の課題に合わせた「主運動に必要なアップメニュー」を選択することで、活動意欲が継続していた。その間、先生は、それぞれのグループを巡回しながら適宜、個に応じた支援を行っていた。また、課題を意識することやゲームの振り返りに、1人1台端末を効果的に活用し、児童が主体的に考えて活動する授業となっていた。

注1：授業支援・学習活動支援ソフトウェア。子どもたちの活動の状況を一覧で確認できる機能などがある。

注2：分類、比較などものごとを批判的、複合的に考える際に、その考えを整理して見やすい形で表現するための道具。(ベン図、クラゲチャート、イメージマップなど)

注3：一斉学習・協働学習・個別学習それぞれの学習場面に対応したタブレット学習用ソフトウェア。

注4：ミライシードの中の授業支援ツール。個人やグループで思考錯誤しながら表現できる機能や全体で共有できる機能などがある。

注5：ミライシードの中の協働学習支援ツール。個人の意見をクラス全体に共有できる。

☆「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて

先生方の声（4/19 研究主任意見交流会 & 4/23 教務主任研究会）を紹介します。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の具体的なイメージが、グループ協議の話し合いで明確になり、すっきりした。

個別最適な学びと協働的な学びの大切さがわかった。特に「学習の個性化」が難しい。

「個別最適な学び」を校内の先生方にイメージしてもらえようように説明するのは、今の自分の理解度からでは難しい。

やはり授業改善は大切。個別最適な学びの実現に向けて先進校を視察できればと思う。



様々な道を進めるように道具を持たせるといことは、教材研究、授業研究を積み重ねないと道は遠いという気がする。

学習の個性化について、自分に意識化できたことが自分なりの成果。研修後、職員室で話題にした。

授業モデルみたいなものを皆で共通してもって、どういう風にすればよいかを皆で考えていかないと進めるのが難しい。

教師がどこで手を外して、子どもの個別最適かつ協働的な学びにもっていくかということが、教師としてのコーディネートのあるところと考える。

今まで取り組んできた部分で、共通することがあれば、そこからさらに進化していくイメージで授業研究を進めていくとよいのではと研究主任と話している。

自己選択、自己決定の場を増やしたい。特別支援も個別最適になる。タブレットの使用で生き生きする子もいるので、その子の学びが深まるような選択肢を用意できるとよいと思う。

集団ではなく、一人一人を見ていこう、誰一人取り残さないということならよくわかる。

「個別最適な学び」を進めていく上で、単元構成が重要。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実についての参考資料

※「🔗」←マーク付近のアンダーバーをクリックすると参考になるサイトが閲覧できます。

🔗 【文部科学省「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、
協働的な学びの実現～(答申)概要】



🔗 【独立行政法人教職員支援機構 理事長 荒瀬克己
「令和の日本型学校教育の構築を目指して」】



🔗 【愛知県春日井市教育委員会
水谷年孝氏(R5リーディングDXスクール事業夏季学習会)】



🔗 【文部科学省 | 人 | 台端末で学校が変わる! 小学校編】



🔗 【文部科学省 | 人 | 台端末で学校が変わる! 中学校編】



「『個別最適な学び』の正解を得よう」とするのではなく、「誰一人取り残すことなく、すべての子どもたちの資質・能力を育成する」ことに向けて校内で対話を持ち、試行錯誤していただいていることと思います。今号が、後期学校訪問に向けて、より意識を向けていただくためのヒントになれば幸いです。

誰一人取り残すことなく、すべての子どもたちの資質・能力を育成する

